

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p>なし</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>【特筆すべき事項】</p> <p>全学でGPA制度を導入したことは高く評価でき、特筆に値する。一般論としてGPA制度導入の目的は「学生の学ぶ意欲の助長」、「学生の目的意識的・計画的な学びの助長」、「学生の成績評価の厳格化」など多様にありうる。そこでGPA制度の具体的な活用の在り方が問われることになる。法学部の点検・評価シートの「目標達成の指標」欄に、「全学でGPA制度が導入され、各種の選考等で活用されている」との記述がある。そうだとすると、たとえばGPAのあるポイントを基準点に設定して、進級・卒業の条件、教育実習履修の許可条件、留学の許可条件、奨学金支給ないし継続支給の認定条件など「学生個人の権利ないし利害にかかわる事項の許可・承認の条件」として活用していることがすでにあるのかもしれない。そうした場合、その理論的根拠、正当性、教育指導上の適否等が問われることになるので（説明責任）、十分な検討をお願いしておきたい。</p> <p>【改善提言】</p> <p>シラバスに関しての問題の一つは、学生がシラバスを読み、理解し、活用しているかどうかである。大学の点検・評価シートの「改善すべき事項」欄に、「本学はWebシラバスを導入しポータルサイトで公開しているが、学生のアクセスが十分でない」との記述がみられる。経営学部のシートには、「履修前にシラバスを読んできてくる学生はほとんどいない」と記述されている。国際関係学部は「シラバスを読んできてくる学生 目標達成の指標：70%」を掲げている。このような取り組みが全学に広がることを期待したい。</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>なし</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<p>授業は講義・演習を組み合わせて行われている。1年次配当の「アジア概論」「国際関係論」「比較文化論」の基礎教育・専門教育の必修科目を除くほとんどの授業が、受講者100名未満の小・中規模授業として運営されている。また、教員と学生の双方向性を高め、学習指導を充実させるために、2年次を除くすべての学年で少人数の演習を必修化している。2年次には、演習は必修化されていないものの、「国際関係テーマ研究」「比較文化テーマ研究」が多数開講され、学生の関心や興味に応じて複数の演習科目を履修できるようになっている。3年次の専門演習の選択と卒論テーマの決定などにとって有益な機会となる。授業形態はシラバスで明示されている(A4-3-1)。</p> <p>履修科目登録の上限設定については、1年次から3年次までは年間44単位を登録の上限としている。4年次には上限がなかったが、2013年度の学則改正により、4年次の登録の上限を48単位と定めた(A4-3-2 第23条の18第2項、B4-3-55 d2-表20)。</p>
-------	---

	<p>学生の主体的な学び（アクティブ・ラーニング）を推進するために、演習や「国際関係テーマ研究」「比較文化テーマ研究」（2015年度以後開講）のほか、「社会人基礎力（ジェネリックスキル）」の育成に配慮した企業や自治体との連携によるPBL型（問題解決型）の授業が、2013年度以後毎年開講されている。従来も、『アジア理解教育の総合的取組』の4つの柱の1つ「学生による企画・参加・実行型の活動」の一環として、2014年度以後「大豆のアジア学」が開講されたり、また、課外の活動ではあるが、多くの学生が自主的に参加する地域研究会（学生と教員の共同運営による研究組織）関連イベント（「Asia Mix（料理祭）」（1986年～）「Asian Language Speech Contest」（1998年～）など）は、アジア言語学習や地域研究と有機的に連動し、学生の主体的な学びを導く恰好の場となっていた(B4-3-4)。こうした多様な事業により、学生のボランティア参加率（DACIXにより把握）や、留学に挑戦するなど、学生の主体的行動が若干ではあるが増加している。ただし、本格的な成果の検証は今後の課題である。「地域研究会の研究班に所属して活動している学生数：200名以上」という目標については、前述の地域研究会の関連イベントと重複する指標でもあり、学生の主体的な学びの評価指標としてあえて設定する必要はないとの判断から、2017年度目標からは除いている。</p> <p>アクティブ・ラーニングの体制は整いつつあるが、PBL型の授業数及び参加する学生数など、不十分である。</p> <p>2014年度には「学生による企画・参加・実行型の活動」を奨励するために、学部行事の運営や学内外の課外活動（ボランティアなど）を単位認定できるDACIX（Daito Asian Communication Index）制度が整備された。DACIXの申請者数は、2014年度が84名、2015年度が121名、2016年度は118名にのぼっている。(B4-3-5)、このことは、制度の定着化とともに、学生の主体的な学びの成果の一端を示しているといえよう。学内的な活動は活発になってきているが、学外コンテスト等への参加がやや低調である。</p>
4-3-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実について【×】 具体的事例：</p> <p>(3) 学生の主体的参加を促す授業方法について【○】 具体的事例：埼玉中小企業家同友会との連携による1、2年次生PBL型授業を展開した（半期4コマ分）。</p>
4-3-2	<p>全学の統一した書式でWebシラバスが作成され、学部の教務委員会が記載内容などの適否についてチェックを行っている(A4-3-1、B4-3-19)。チェックの観点としては、授業内容・方法とシラバスの記述の整合性、評価方法の妥当性などにとりわけ配慮している。2016年度「学生による授業評価アンケート」結果では、「教員はシラバスを授業に反映させていましたか」の設問に対して、学部平均で70.9%の学生が肯定的な回答をしている(B4-3-55 d2-表23)。また、「授業の目的やねらいは明確でしたか」の設問に対する肯定的な回答は、72.9%に上っている(B4-3-22)。</p> <p>なお「この授業のシラバスをしっかりと読みましたか」の設問に対する肯定的な回答が「54.2%」となっている。前年度に比べ若干の改善はあるものの依然として低いので、シラバスを読ませる工夫が必要である。</p>
4-3-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) シラバスの作成と内容の充実について【○】 具体的事例：特に成績評価の方法と基準を明確にすることについて、教授会等において再三確認された。</p> <p>(2) 授業内容・方法とシラバスとの整合性について【×】 具体的事例：</p>
4-3-3	<p>授業の目標やねらいに対応した成績評価の方法と基準をシラバスに明記し、学生に周知を図っている(A4-3-1)。成績評価も、シラバスに明記された基準に従って、厳正かつ公平に行われている。留学、課外活動の単位認定は、45時間の学習を1単位とする単位制度の趣旨に基づき、さらに教授会の承認を条件とするなど、手続き的にも適切に処理されている(A4-3-2第19条の2)。既修得単位の認定についても、学則に基づき、単位制度の趣旨はもとより、学部の教育目標や開講科目の内容と既修得科目内容の整合性を精査したうえで、教授会の承認をもって認定している(A4-3-2第19条の2～4)。</p>
4-3-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 単位制度の趣旨に基づく単位認定について【×】 具体的事例：</p> <p>(3) 既修得単位認定について【×】 具体的事例：</p>
4-3-4	<p>個々の科目についての検証は担当教員に委ねられているが、全学の「学生による授業評価アンケート」の結果を国際関係学部</p>

	<p>FD 委員会が分析、学部として取り組むべき授業改善上の課題を設定し、2010 年度より、ベネッセコーポレーション大学事業部その他の協力を得て、学部独自の FD 研修会を実施し課題解決に向けた検討を行っている(B4-3-38)。</p> <p>卒業論文提出時に学部が独自に実施する「卒業生アンケート」により、4 年間の学部教育に対する満足度および意見などを把握し、教育課程の見直しや授業改善に活かしている。(B4-3-40)</p>
4-3-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について【○】 具体的事例：アクティブ・ラーニングのための実践的な研修会を実施した（追加資料）。</p> <p>(2) 教育方法の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	年に2回のFD研修会が定着しつつある。

【改善すべき事項】

4-3-1	PBL型授業の授業数が十分とはいえないので、さらに増やしていく必要がある。
4-3-2	「この授業のシラバスをしっかりと読みましたか」の設問に対する肯定的な回答が「54.2%」と依然として低いので、シラバスを読ませる工夫が必要である。
4-3-3	ディプロマポリシーをふまえた具体的な到達目標を設定する。
4-3-4	アクティブ・ラーニングの指導やPBL型授業を展開するための手法を学ぶFD研修会を継続的に実施する必要がある。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-1 学生の主体的な学びの促進	PBL型の授業数 (Project or Problem) 5科目以上	→			B	B	
		アクティブ・ラーニング志向の授業数 20科目以上	→			C	C	
		地域研究会関連行事（研究班を含む） にスタッフとして参加した2、3年次の 学生数 平均延べ50名以上				B	A	
		授業時間外の自主学習 「授業改善アンケート」 「ほとんどしなかった」の割合 40%以下				C	B	
		PBL型授業運営のための研修会 参加教員数：10名以上				A	C	
	4-3-3 成績評価の方法と基準を明示 する。	「授業改善アンケート」の当該設問 「明示していた」80%以上	→			A	B	
16年度 目標	4-3-1 学生の主体的な学びの促進	PBL型の授業数 (Project or Problem) 2科目	→			A		
		アクティブ・ラーニング志向の授業数 10科目	→			A		
		地域研究会関連行事（研究班を除く） にスタッフとして参加した2、3年次の 学生数 延べ30名以上				A		
		地域研究会の研究班に所属して活動し ている学生数：200名以上				C		
		学外のコンテストや行事に出場した団体 の数が5団体以上				B		

		授業時間外の自主学習 「授業評価アンケート」 「ほとんどしなかった」の割合 (2013年度調査: 65.2%) 60%以下						
		シラバスを読んで受講する学生 (2013年度調査: 56.5%) 70%以上	→			B		
		PBL型授業運営のための研修会実施				A		
	4-3-3 成績評価の方法と基準を明示する。	「授業評価アンケート」の当該設問 「明示していた」70%以上				A		
17年度 目標	4-3-1 学生の主体的な学びの促進	PBL型の授業数 (Project or Problem) 2科目				A		
		アクティブ・ラーニング志向の授業数 10科目				A		
	4-3-2 シラバスをしっかりと読む	シラバスを読んで受講する学生の割合 (2016年度調査: 54.2%) 70%以上				B		
	4-3-3 成績評価の具体化。	ディプロマポリシーの点検・改訂を行い、 教授会に提案される。				A		
	4-3-4 アクティブ・ラーニングのための研修会の実施	PBL型授業運営のための研修会が最低 1回は実施されている。				B		

IV 評価専門委員会所見

4-3-1【現状】 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の推進など、学部独自の取組が他学部の模範となる点は高く評価できます。
4-3-4【現状】 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について、もしこの取組の具体的な成果があがっていれば記述してください。

V 所見への対応

4-3-4【現状】で指摘されている「組織的研修の具体的な成果」については、2017年度においてPBLを実施する教員数が増加しているといえる状況にはないので、現時点で、成果を記述することはできない。

VI 次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-3-1 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)
大東文化大学ホームページ (Web シラバス)
<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html> <既出>A4-2-16
A4-3-2 大東文化大学学則 <既出>A1-1
A4-3-7 国際関係学部 ガイドブック 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-12
B4-3-4 国際関係学部ホームページ (学部案内)
http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/information/index.html
B4-3-5 国際関係学部 DACIX 申請状況一覧 (2014~2016 年度)
B4-3-19 2016 年度シラバス (授業計画) の作成依頼について
B4-3-22 学生による授業評価と大学教育 2015 年度(国際関係学部抜粋
p.63 Q.授業の目的やねらいは明確でしたか) <既出>B3-12
B4-3-24 学生による授業評価アンケートと大学教育 2015 年度 <既出>B3-12
B4-3-25 ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

B4-3-26 大学ホームページ 授業評価アンケート報告書
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html

B4-3-27 2016年度大東文化大学卒業生アンケート結果

B4-3-28 FD 報告書 2016年度

B4-3-29 大学ホームページ (卒業生アンケート) http://www.daito.ac.jp/sotsugyosei_ankeito.html
http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_10775.html

B4-3-40 2016年度・大東文化大学国際関係学部・卒業予定者アンケート

B4-3-53 大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動)
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <<既出>>B1-16

B4-3-55 大学データ集 <<既出>>B1-22

〔追加資料〕

第1回FD研修会 http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_21584.html

第2回FD研修会 http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_22187.html